

第2回市民検討協議会のまとめ資料

【「第1回市民検討協議会のまとめ資料」を確認した上での追加意見】

- ・「歴史あるまちづくり」を重視してほしい（健康・福祉）（都市基盤・産業）
- ・「みどりの充実」についても強調していくべき（都市基盤・産業）
- ・都市像は、市民が積極的にかかわり、市民と行政両方に主体性が出るイメージが良い（“協働”ではなく“共同”にする等）（生活・環境）
- ・「人間性の尊重」を「相手の立場に立ってふれあう」という表現にする（健康・福祉）

【基本構想の見直しの論点検討】

■まちづくりの主な課題

- ・子供が読んでわかるくらい詳しく書いた方がよい（健康・福祉）

○少子高齢化への対応

- ・少子化対策と高齢化対策は、別々に取扱ったほうがよいのではないか
- ・「重圧感」や「負担感」といった表現は、子育てをしている立場からすれば、少しマイナスイメージが強すぎるので言い換えた方がよい
- ・子育てをしやすい環境の整備が必要（保育所の拡充、子育てヘルパー制度の充実など）
- ・医療に関する課題を盛り込む
- ・高齢化対策については、就業環境の充実、幸福感の持続、介護者へのサポートやケア、認知症予防などが課題（健康・福祉）

○コミュニティにおける参加と支え合い

- ・「地域」がどこを指すかが不明確（健康・福祉）
- ・「人づくり」というキーワードを盛込んでもらいたい（健康・福祉）
- ・現在のまちづくりの基本理念では府中市の取組がわからず、市民が主体的に動けない（行財政）
- ・新旧住民の交流や世代間の交流がうまくいっていないように感じるので、そこが課題（健康・福祉）（文化・学習）
- ・人とのつながりに対し、抵抗感がある人が増えている（文化・学習）
- ・コミュニティへの参加者が固定化されている（行財政）
- ・コミュニティへの参加や災害時の対応に向け、自治会や消防団による声かけ、あいさつなどが重要（文化・学習）
- ・無関心な方や、関心があっても参加できない、参加しづらい方がいるので、ホームページや広報等での告知や募集などが必要（健康・福祉）（文化・学習）
- ・多くの人に参加してもらえる魅力的なコミュニティとなるよう、コミュニティのあり方の検討が課題（健康・福祉）（文化・学習）

- ・目的によるコミュニティの形成に向け、府中国際交流サロンなどの施設について情報発信すべき（行財政）（文化・学習）
- ・コミュニティ同士をコーディネートする役割が市役所に必要（行財政）

○循環型社会の構築

- ・環境問題についてどのように市民の理解を深めていくかが課題（生活・環境）
- ・ごみやエネルギーの利用を減らすため、市民、生産者、行政がそれぞれの役割に応じた取り組みが必要（生活・環境）
- ・ごみの削減に向け、リユースの考え方を盛り込む（生活・環境）
- ・生態系への配慮や、生態系に関する教育の推進が必要（生活・環境）
- ・急激な都市化により害虫や、ハクビシンなどの害獣がはびこっているが、そうした問題に対応する行政の管轄が明確でない。行政はこうした被害のニーズにも応える必要がある。

○地域の高度情報化の推進

- ・災害時の対応や人と人とのつながり（コミュニケーション）の強化のため、情報通信技術に依存しない仕組み作りも必要（都市基盤・産業）
- ・IT技術を使える人向け、使えない人向けに合わせた情報発信を行うべき（都市基盤・産業）
- ・行政は、推進するメリット・デメリットを見極める必要がある（生活・環境）

○男女共同参画社会の推進

- ・意思決定の場に、女性が日常的に参画するようにする
- ・男性の側からも女性の参画を促す必要がある
- ・性別役割分担、分業の意識を変える
- ・市のあらゆる検討分野に「女性の視点」を反映させる（防災分野等）
- ・女性が社会参画できるよう、介護や子育て等の環境を整える（文化・学習）

○個性的で魅力的な都市景観の創造と土地利用

- ・農地は景観上重要で、地域のコミュニティー形成、流通の地産地消、緑化による環境保全、災害時の避難空地等として役立つので、減らさないようにすべき（都市基盤・産業）（文化・学習）
- ・樹木の植栽、保存等の自然環境にやさしい土地利用を推進すべき（都市基盤・産業）
- ・府中の東西に走る崖線は、自然緑地として魅力的（都市基盤・産業）
- ・市役所等でも歴史を感じさせるような建物にしてはどうか（都市基盤・産業）
- ・京都のような歴史的風土保全のための補助金を出す仕組みを検討してはどうか（都市基盤・産業）
- ・歴史・みどり・店舗や住宅が調和したまちづくりを行うべきである（都市基盤・産業）

- ・「災害に強いライフライン」について、実現に向けた取組み方法等を記載すべき（都市基盤・産業）

○地方分権への対応

- ・地方分権一括法が2000年に施行されているが、あまり地方分権化が進んでいない気がする
- ・市が地方分権をどのような視点で考えているかわからないので、市民の意見を吸い上げて対応を検討すべき
- ・地方分権から地域主権を目指していく必要がある
- ・「国による税財源配分の見直しや、様々な行政課題に対応するための新しい行政体制の構築が必要である」という表現が他人事に思えるので、市として積極的な立場を示していくべき
- ・他市よりも先陣を切って政策を決定できるよう、国や都に積極的に働きかけてほしい
- ・市が抱える業務や問題について情報提供し、一緒に取り組むことを提示すべき
- ・市として横の連携を充実させる組織を構築してほしい
(行財政)

■土地利用

- ・「魅力あふれる市街地」という表現をもう少し詳しい表現に変えた方がよい（人が集まるまち、というイメージ）（健康・福祉）
- ・防災を意識したまちづくり、土地利用を考えてほしい（健康・福祉）（文化・学習）
- ・開発による歴史的景観や自然への影響を取扱ってほしい（健康・福祉）
- ・文化的価値の高い「けやき並木」を憩いの場所として活用する（文化・学習）
- ・自然に親しむことで世代間の交流、コミュニティの形成、地産地消による食育にもつながる（文化・学習）
- ・工業の土地利用について入れてほしい（健康・福祉）
- ・駅前の再開発では商業を営んでいる人たちの意見を取り入れたまちづくりが必要（文化・学習）
- ・市内でも公共施設の格差があるので、その解消をすることが必要（西側に施設が少ない等）（文化・学習）